

かしま

ほっと HOT ほっと hot 通信

5月号 Vol.376

令和6年（2024年）5月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会

〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢目22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索



スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。



- 1,2 巻頭特集
 - 1. 新入職者合同研修 実施報告
 - 2. 新任医師のご紹介
- 3 認定看護師による勉強会 開催のお知らせ
- 3 コラム ひんがら目 (203)
 - 『小細胞肺がんの
脳転移と放射線治療』
 - 呼吸器科 部長 山根 喜男
- 4 ようこそ家庭医療へ！
リハビリPOST
外来院内調剤を開始しました！
かしま荘通信



令和6年度入職式



社団医療法人養生会の入職式が、4月1日（月）に執り行われ
21名の新人が養生会の仲間に加わりました。

巻頭特集

- 1 令和6年度 社団医療法人養生会 新入職者合同研修 実施報告
- 2 新任医師のご紹介

01

新入職者合同研修 実施報告

4月1日（月）から6日（土）まで新入職者合同研修会を行いました。今年度は、看護師1名、准看護師1名、介護士1名、看護助手1名、理学療法士8名、作業療法士3名、社会福祉士1名、栄養士3名、調理師1名、事務職員（広報企画室）1名と、専攻医3名を含む計24名が入職しました。

● 入職式



今年度の入職式は4月1日（月）に行われ、中山大理事長と石井敦病院長、中山文枝理事が新入職員へ激励の言葉を贈りました。
新入職員は一人ひとり名前が呼ばれ、中山大理事長より代表の作業療法科・土屋倫子さんへ辞令が手渡されました。

● 新入職者合同研修

接遇研修



接遇に関するマナーや電話対応をペアになって練習しました。

防火訓練



消火器の使い方や、逃げ道の確保について教わりました。

まとめと発表



グループごとに印象に残ったことを自由に発表しました。

新任医師のご紹介

4月1日より総合診療科に専攻医が
3名入職いたしました。
着任のご挨拶をいただきましたので
ご紹介いたします。



総合診療科
金井 雄大
かない たけひろ

を通して、地域における先生と患者様との関わりを間近でみた経験から、患者様とのコミュニケーションやプライマリケアの重要性を強く感じ、地域医療に従事したいと考えるようになりました。地域の皆様との信頼関係を大切に、患者様それぞれにあった医療を提供できたらと考えております。

いわきで生活するのは初めてのため慣れないことが多く、皆様にご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、いわき市の地域医療に少しでも貢献できるよう精進してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

皆様初めまして。金井雄大と申します。栃木県足利市の出身で、福島県立医科大学を卒業後、会津若松市にある会津医療センターで2年間の初期研修を行いました。そして2024年4月より福島県立医科大学地域・家庭医療学講座の専攻医としてかしま病院でお世話になることとなりました。

学生の頃、1週間かしま病院で地域実習をさせていただきました。大学の実習では患者様と直接接する機会が少ない中で、かしま病院の訪問診療で患者さんの胸に聴診器を当てたことが今でも鮮明に記憶に残っています。学生実習



総合診療科
桜庭 省吾
さくらば せいご

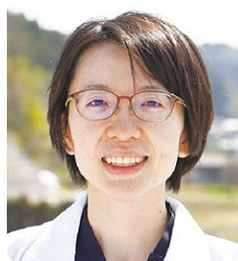
はじめまして。総合診療科専攻医の桜庭省吾と申します。この度はご挨拶の機会を頂きまして誠にありがとうございます。

出身は秋田県大館市です。令和3年に秋田大学を卒業し、社会医療法人明和会中通総合病院(秋田県秋田市)で初期研修を行い、その後同法人の大曲中通病院(秋田県大仙市)に1年間勤務しておりました。令和6年度より福島県立医科大学医学部地域・家庭医療学講座に所属し、4月から社團医療法人養生会かしま病院で勤務させていただきます。

私は初期研修が修了し、医師3年目になっても内科に進むか総合診療科に進むかで迷っておりました。しかし、実際に医師として勤務する中で、患者に対して幅広く診療する力を持ち、患者の生活背景や価値観を考慮して医療を提供できる力が必要だと考えるようになりました。研修プログラムを探すと、福島県が東北地方で最も規模が大きく、指導医や専攻医の数も多いと感じ、福島医大のプログラムでの研修を決めました。また、その中で急性期医療や在宅医療など様々な環境で自分が求めるスキ

ルをつけるための研修が行えると思いい、かしま病院での研修を開始しました。

現在、充実した日々を過ごすことができ、福島に来て良かったと感じています。実際に勤務してからも総合診療医として成長するため、そしていわき市の医療に貢献できるよう努力していく所存です。まだまだ未熟ですが、何卒よろしくお願いたします。



総合診療科
中田 奈緒
なかだ なお

はじめまして、医師4年目、専攻医2年目の中田奈緒と申します。

出身は福島県の西郷村、令和3年に福島県立医科大学を卒業後、白河厚生総合病院で2年間の初期研修を行い、初期研修終了後は福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座に入局し、専攻医研修を開始しました。白河厚生総合病院で1年間の専攻医研修を行い、

今年度からかしま病院で勤務開始となりました。

私が総合診療および家庭医を志したきっかけは、大学で地域・家庭医療学講座の講義を受けたときに、自分がやりたい医療に一番近いと感じたからです。私は福島県で生まれ育ち、震災の経験から医師になることを本格的に目指して医学部へ進学しました。今後医師として活動していくにあたり、自分ができること、福島県の医療で求められていることは何かを探していた時に、大学で出会った家庭医療という存在が大きく響きました。家庭医療は、患者さんと真摯に向き合い、聞く、話す、診る、を行っていくこと、患者さんとともに学び、考えていくことができる医療であり、それらを実践できる力を身に着けたいと今の道に進みました。

いわき、そしてかしま病院という新しい地で勤めるにあたり、至らぬ部分も多いかと思えます。皆様からいわきの良いところをたくさん学ばせていただき、いわきの皆様の生活を少しでも支えることができれば幸いです。どうぞよろしくお願いたします。



認定看護師による勉強会を開催します!! 6月19日(水)



当院では、地域で医療・福祉に従事する方々に向けて、認定看護師による勉強会を行っています。2019年秋以降はコロナ禍のため実施できませんでしたが、地域で働く皆様とまた一緒に学べる機会を作ることができました。皆さまのご参加をお待ちしております。

認定看護師の勉強会

- 講師** 感染管理認定看護師 木下 由美子
- 日時** 令和6年6月19日(水) 18時~19時
- 場所** かしま病院コミュニティホール
- 対象** 主に医療、看護、介護に携わっている方
- 内容**
 - ① 感染対策の基本について
 - ② 個人防護服を正しく着用しよう
- 定員** 20名程度 ※定員に達し次第お断りする場合がございます。
- 締切** 6月15日(土)
- 申込** 事前のお申込みが必要です。右記 QR コードまたはかしま病院ホームページより、申込フォームにご記入のうえお申込みください。



お申込みはコチラ

Lecture

認定看護師とは

認定看護師とは、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と豊富な知識を有し、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談の役割を果たす看護師をいいます。養生会の認定看護師は、患者様・ご家族の安心とQOLの向上をめざし、多職種と連携を図りながら活動しています。養生会では、現在6名の認定看護師が活躍しています。

小細胞肺癌の脳転移と放射線治療

へビースモーカーであったIさんは79歳のとき、半年くらい咳と痰が続き、やがて喘鳴が聴かれるようになり、病院で胸部写真撮ってもらったところ、右肺にしこりが見つけられました。当科に紹介になった時には右鎖骨上窩にもしこりが触れました。皮膚の上から局所麻酔をして針生検をしました。たところ小細胞癌の診断がつかまりました。腫瘍マーカーのPGRP1920と高値(正常値は80以下)です。

翌週に入院し早速、抗がん剤治療を開始しました。週1回の抗がん剤の点滴を3週間続けて1コースです。血小板減少や下痢、食欲低下などの副作用がありました。1コース終了後には、胸部のしこりは著明に縮小し、PGRPも36と正常値になりました。

退院後は、週1回通院で外来化学療法を3コース追加しましたところ、CTの検査やPGRPの結果では癌はほとんど消えました。その後は定期検査に見えただけでしたが、半年くらい経ったところ、以前の病巣が再び増大して来ました。

抗がん剤の治療はもうしたくないとの意向があり、かわりにR病院放射線科のT先生にお願いして、胸部に放射線治療をやって頂きました。

放射線治療が終わったと思った間もなく、MRIで脳転移が見つかりました。20年間懇意にして貰っていますMガンマハウスの山本昌昭先生が暮の12月29日にもかかわらずガンマナイフ治療をやって下さいました。安心も長く続かず、1年後に新たな脳転移が見つかり、12月28日に2度目のガンマナイフ治療を受けました。



さらに半年後には髄膜播種を認めました。こうなるとガンマナイフでは制御できないとのこと。全脳照射を勧められました。全脳照射は、以前胸部照射でお世話になったT先生に再々お願いしました。

残念なことに、全脳照射後は徐々に認知症が進んでしまいました。奥様と二人暮らしで老老介護に不安がりましたが、最後まで自宅で世話したいという奥様の気持ちを尊重し、訪問看護を導入しました。認知症はさらに進みましたが、穏やかにニコニコされていて兄弟姉妹の方々の頻回の訪問などもあり幸せでした。

全脳照射後約10ヶ月で、患者さんは自宅で旅立たれました。往診しお看取りしました。初診時に紹介して下さったM先生、胸部放射線治療ならびに全脳照射をして下さったT先生、そしてガンマナイフを2度して下さった山本先生に報告書を送りました。

T先生からは、「全脳照射後に10ヶ月生存した人を見たのははじめてです」との返書を頂きました。

小書は、患者さんがおてくなりになった際には必ず、紹介元の先生や途中でお世話になった先生宛に、治療経過と転帰を報告するようにしています。こういう連携が医療者の信頼関係に繋がります。患者さん中心の医療に役立ちます。

放射線治療の先生方は、案外、治療が終わったあとの経過は御存知ないのだと知りました。

治療をお願いするときだけでなく、治療結果についても報告する習慣が広まれば、医療連携が密になるのにと、ため息が出ました。

全脳照射を施行したのは良かったか悪かったか、今でも悩んでいます。

(呼吸器科部長 山根喜男)



ようこそ 家庭医療へ!

～ いわきに生きる家庭医育成への挑戦 ～

第171回

総合診療専門研修プログラム整備基準

石井 敦 病院長



一般社団法人 日本専門医機構が掲げる総合診療専門研修プログラム整備基準、つまり、総合診療専門医になるために専攻医が研修を通してクリアすべき要件を記したものをあらためて見返してみました。

冒頭の理念には『現在、地域の病院や診療所の医師が、地域医療を支えている。今後の日本社会の急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる諸問題について適切に対応する医師の必要性がより高くなることから、総合的な診療能力を有する医師の専門性を学術的に評価し、新たな基本診療領域の専門医と位置づける。総合診療専門医の質の向上を図り、以て、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的とする』と記されています。

次に、総合診療専門医の使命として『日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど、保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら、地域で生活す

る人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する使命を担う』とあります。

そして、専門研修修了時には『地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス（在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア等を含む）を包括的かつ柔軟に提供できる。また、総合診療部門（総合診療科・総合内科等）を有する病院においては、臓器別でない病棟診療（高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等）と臓器別でない外来診療（救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア）を提供することができる』ことが求められています。専攻医らはこれらを習得すべく日々研鑽しています。温かく見守っていただけるとありがたいです。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



第158回

リハビリテーションの職種について

今回はリハビリテーションの職種についてお話ししていきたいと思います。病気やけが、加齢などによって、日常生活動作やコミュニケーション機能に障害が生じてしまった患者様を治療、支援していくのがリハビリテーションの専門職です。リハビリ専門職には、理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）の3職種があります。理学療法士は、主に寝返る・起き上がる・座る・立つ・歩くなどの基本的な動作を中心に運動療法、物理療法（温熱、電気など）を用いて、機能の再獲得を目指していきます。作業療法士は、主に日常生活や社会生活への復帰を目的とし、食事、着替え、入浴、料理などの応用的な動作を中心に動作訓練などを通

して、機能の再獲得を目指していきます。言語聴覚士は、主に話す・聞く・食べる・飲み込むなどの機能が障害されてしまった患者様に対して、適切な評価や訓練、指導を行い、機能の再獲得を目指していきます。それぞれ分野が違いますが、各分野のスタッフが協力して、患者様や家族様を支援していきます。

今年度、かしま病院には、新たに11名のリハビリテーションスタッフが加わりました。理学療法士8名、作業療法士3名です。どうぞよろしくお願いいたします。

作業療法士 古市 愛理
言語聴覚士 大泉 加奈美



かしま荘通信

車椅子用クッション寄贈式 3月28日(木)



3月28日(木)、常磐共同ガス様より、車椅子に使用するクッションを寄贈いただきました。

「私たちが生活していく上で必要な物です。大事に使わせていただきます。」と代表のご利用者様が感謝の言葉を述べられました。

外来院内調剤を開始しました!!



当院では、令和6年3月30日より外来院内調剤を始めました。外来受診後、院内でそのままお薬を受け取る事が可能となりますので、外の薬局への移動や会計の手間を省け患者さんのご負担軽減にもつながります。

もちろん、引き続き院外の薬局等でお薬を受け取る院外処方も利用可能です。

患者さんの希望に沿った形でご対応いたしますので、ご不明な点がございましたらお気軽にお問合せください。